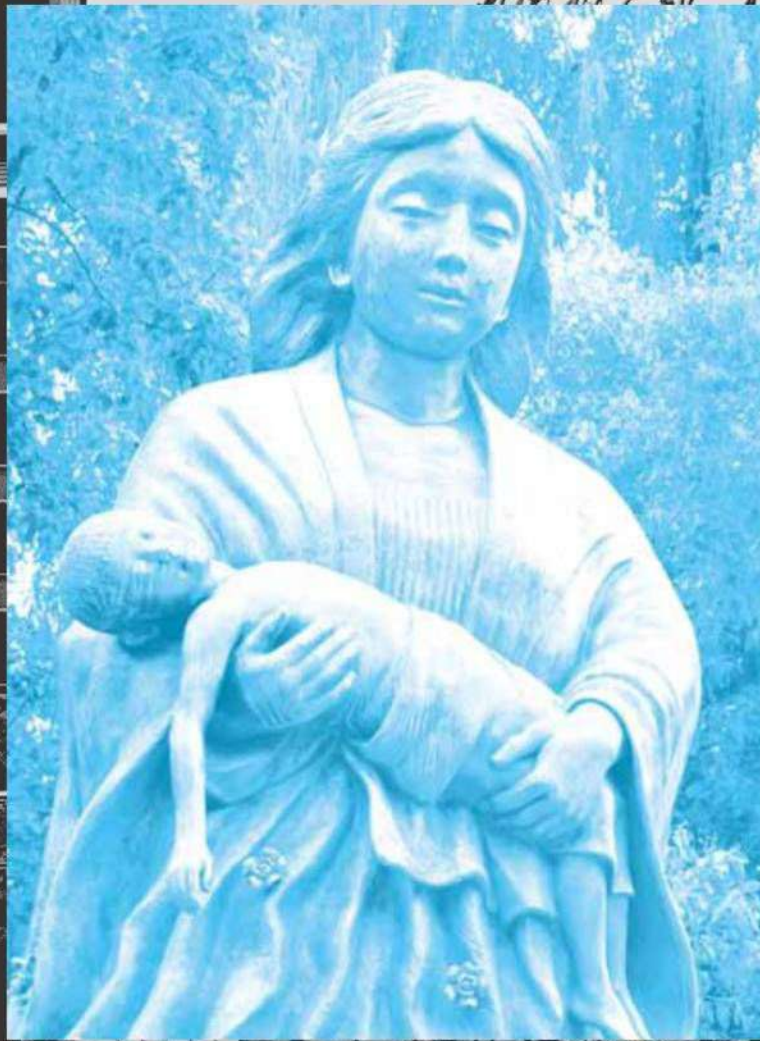


# 女性像からみる原爆映画

～スター・ヒロインと被爆者像の交錯～



2019年7月29日(月)  
18:30～20:00

立教大学池袋キャンパス  
14号館6階D601教室

広島・長崎への原爆投下以降、日本では今日までに原水爆や被爆者を題材にした映画が200本以上製作されています。これら「原爆映画」は、その特殊な題材ゆえに今まで専ら社会・政治的状况のもとで考察されてきました。しかし、原爆映画の画面や音声を丹念に読み解いてみると、それらが単に時代ごとの核を巡る言論を反映しているだけでなく、同時代の日本映画の潮流に沿って、映画を構成していることが分かります。

本セッションでは、原爆映画がその時代の人気スターや流行のヒロイン像、典型的なプロットなどを取り入れながら、被爆者像を構築してきたことに注目し、映画の中の被爆者像が、規範的なジェンダー秩序に適った女性像で表象されてきたことを検討します。ジェンダー化された被爆者表象の分析を通じて、映画が未曾有の災厄としての原爆を、いかに清楚で無垢なイメージによって映し出してきたのかを考えます。

講師：片岡 佑介 氏

立教大学ジェンダーフォーラム教育研究嘱託、  
一橋大学博士研究員、至誠館大学非常勤講師

一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了、博士(学術)。専門は映画研究・表象文化論。主な論文は、「占領の表象としての原爆映画におけるマリア像：熊井啓『地の群れ』を中心に」、東琢磨ほか編『忘却の記憶 広島』(月曜社、2018)、「無垢なる被害者」の構築：新藤兼人『原爆の子』、関川秀雄『ひろしま』にみる女教師の歌声と白血病の少女の沈黙、『映像学』97号、(2017)など。

入場無料・申込不要

お子様連れでのご来場は  
事務局までご相談下さい

